

「施策検討ワーキンググループ報告(案)」に対する意見

中鉢良治

意見箇所	原文	修正案	理由
I 1	国民一人当たりGDPは相対的に低落の一途を辿っている。	国民一人当たりGDPの 順位 は相対的に低落の一途を辿っている。	事実在即した記述への変更。
I 3	重点的な研究開発が推進され、多くの革新的技術が創出されている。しかし、個々の成果が社会的な課題の達成に必ずしも結びついていないとの指摘もあり、	重点的な研究開発が推進され、多くの革新的技術が創出されている。しかし、 てきたものの 、個々の成果が社会的な課題の達成に必ずしも結びついていないとの指摘もあり、	創出された革新的技術が多いかどうかは主観であり、「多い」とのコンセンサスは得られていないのではないかと、ここで国民と共有すべき視点は、投入された国費に見合う成果を社会・国民が享受している実感がないこと。
I 3	論文被引用数では世界トップの研究者を輩出するなど、着実に力をつけているものの、論文の占有率は漸減傾向にあり、	論文被引用数では世界トップの研究者を輩出する 一方 など、着実に力をつけているものの、論文の占有率は漸減傾向にあり、	我が国全体の研究レベルが、従前と比較し、着実に力をつけているかどうかは不明。
II 2(2) i)	など、多様なエネルギー技術の研究開発を戦略的に推進するとともに、	など、 低炭素化に資するエネルギー技術について は、戦略的に研究開発を推進するとともに、	文意を明確化するため。
II 3(2) i)	エビデンスに基づく革新的な予防法の開発	エビデンス 大規模疫学研究結果 に基づく革新的な予防法の開発	ここでのポイントは、客観的根拠を得るために、大規模疫学研究を行うことと理解している。
IV 1	基礎研究は、近年、イノベーションの源泉たるシーズを生みだすもの(多様性の苗床)として、また、広く新しい知的・文化的価値を創造し、直接的あるいは間接的に社会の発展に寄与するものとして、ますますその意義や重要性が高まっている。我が国の科学・技術・イノベーションの礎を確たるものとするためには、国として、独創的で多様な基礎研究を一層強力に推進していくことが重要であり、基礎研究の抜本的強化に向けた取組を進める。	基礎研究は、近年、イノベーションの源泉たるシーズを生みだすもの(多様性の苗床)として、また、広く新しい知的・文化的価値を創造し、直接的あるいは間接的に社会の発展に寄与するものとして、ますますその意義や重要性が高まっている。 より一層グローバル競争が激化する中 、我が国の科学・技術・イノベーションの礎を確たるものとするためには、国として、独創的で多様な基礎研究を一層強力に推進していくことが重要であり、 基礎研究の国際競争力向上に向け 、抜本的強化に 改革 に向けた取組を 断行 する進める。	基礎研究の意義、重要性は、近年高まってきたものではなく、従前より認識されているところであり、自明。また、基礎研究においても国際競争力の向上が求められ、そのためには従前の延長線上にはない抜本的改革を行う意思表示が不可欠。
IV 2(2)	資金配分に反映する仕組みを検討する。	資金配分に反映する仕組みを検討 構築 する。	国の方策として求められることは仕組みの構築。
IV 2(2)	研究領域毎の論文被引用度で世界トップ1%の研究者を格段に増やすことを目指す。	研究領域毎の論文被引用度で世界トップ1%の研究者を格段に増やすことを 大学に強く求める を目指す。	論文被引用度は、基礎研究の質を判断する上で国際的にも重要なファクターとの認識。国がそれを高める取組を求めない合理的理由は無い。
	教員の意識改革を進めることを期待する。	教員の意識改革を進めることを期待する。 また、国は、採用要件に教育経験を必須化する等、教育者・指導者として相応しい大学教員の資格要件の高度化について、早急に検討を行い、制度化する。	大学は研究機関であるとともに教育機関。産業界は教育機関としての大学への期待は高く、また、国際的にも大学での教育は大学の評価にあたっての重要なファクターである。
IV 3(2)①	独創的で優秀な研究者を養成するためには、	独創的で 国際競争力を有する 優秀な研究者を養成するためには、	優秀かどうかは、通常は相対的に判断されるもの。また、基礎研究においても国際競争力が求められていることから、当該追記が不可欠。
IV 3(2)①	国は、大学が、研究者の業績評価に当たって質的な評価を重視し、例えば、研究開発成果を実用化につなげる取組や教育業績など、多様な観点から能力本位の公正かつ柔軟で透明性の高い評価を行うことを奨励する。	国は、大学が、研究者の業績評価に当たっては、 量的な評価ではなく質的な評価を重視し 、例えば、 国際的に多大な影響を与えた業績 や研究開発成果を実用化につなげた 取組 や教育業績など、多様な観点から能力本位の公正かつ柔軟で透明性の高い評価を行うことを奨励する 強く求める 。	質向上に向けては、評価の視点を従前から変える必要がある。